

第3回 葵が丘小学校運営協議会

日時 令和6年11月21日(木)

15:00~16:30

会場 葵が丘小学校 多目的室

〈次第〉

開会 開催要件(委員の過半数の出席)確認 〈司会:教頭〉

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長選出

4 前回会議録確認

5 熟議 〈議長:見野〉

○ 学校の抱える課題と改善策について

・学校中間評価及び令和6年度全国学力・学習状況調査について(教務)

○ 支援策の具体化

・学力向上について

6 報告 〈司会:教頭〉

○ あおいっ子スマイルサポーター活動経過

7 連絡

(1) 次回 令和7年2月18日(火) 15:00~16:30

(2) 次回の熟議の確認

内容:①学校関係者評価

②学校運営協議会の自己評価表について

③次年度学校運営の基本方針について

閉会

第3回 学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

会長	小栗 則利
副会長	桐村 哲雄
委員 学校支援コーディネーター	見野 泰弘
委員	若松 由希野
委員	田村 都弥
委員	伊藤 謙吾

オブザーバー

北部協働センター	嶋田 哲也
----------	-------

学校支援コーディネーター

西原 真知

学校

校長	島田 一孝
教頭	佐藤 明世
C S 担当教職員	芹澤 純子
C S ディレクター	村上 朝香

浜松市教育委員会

教育総務課	鈴木 陽子
-------	-------

学校運営協議会 年間計画

令和6年4月1日～令和7年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等	備考
1	令和6年 4月25日 木曜日 14:30～16:30 多目的室	熟議テーマ (1)学校運営の基本方針について 説明 ⇒ 熟議 ⇒ 承認 (2)いじめ防止基本方針について	
2	令和6年 6月20日 木曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ ☒ 特色ある学校づくり ☐ キャリア教育の実践について ☐ 学校評価アンケートの項目の検討 ☐ 学校の抱える課題と改善策 ☒ 支援策の具体化	
3	令和6年 11月21日 木曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ ☐ 特色ある学校づくり ☐ キャリア教育の実践について ☐ 学校評価アンケートの項目の検討 ☒ 学校の抱える課題と改善策 ☒ 支援策の具体化	学校運営協議会の自己評価表 委員の意見収集 ⇒学校への提出締め切り日 <u>12月6日(金)</u> 【配布物一覧】 ・前回の会議録 ・令和6年度学校中間評価資料 ・自己評価関係書類 ・学校運営協議会年間計画 ・第4回学校運営協議会案内
4	令和7年 2月18日 火曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ(案) (1)学校関係者評価 学校の自己評価説明⇒改善策について熟議⇒次年度へ (2)次年度学校運営の基本方針について 説明 OR 承認 (3)学校運営協議会の自己評価	

令和6年度 第2回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年6月20日（木） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
- 3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、若松 由希野、田村 都弥、伊藤 謙吾
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー なし
- 6 記録コーディネーター 見野 泰弘、西原 真知
- 7 学 校 島田 一孝（校長）、佐藤 明世（教頭）、芹澤 純子（CS担当職員）
村上 朝香（CSディレクター）
- 8 教育委員会 なし
- 9 傍 聴 者 なし
- 10 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香
- 11 議長の選出

小栗会長より、前回の会議上で年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認した為、予定通り見野委員が務めることになった。

12 協議事項

- (1) 主体性の育成のための取組について
- (2) 支援策の具体化について

13 会議記録

司会の佐藤教頭から、委員総数6人のうち6人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 熟議

(1) 主体性の育成のための取組について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、主体性の育成のための取組についての説明があり、委員から以下の発言があった。

● 異学年の取組について

- ・ クラブ活動だが、異学年の関わり合いを深めるため、今年度は異学年で交流できるよう工夫をして欲しいと事前に講師に依頼した。1時間という限られた中で、交流を深めることは困難ではあるが、少しずつ浸透し始めているように感じた。（見野委員）
→ 前回のクラブでは友達・同学年同士で活動する姿が見られたが、今回は異学年でグループを作って行いましょうと講師の方が声を掛けて実施していた。（若松委員）
- ・ 高学年になると、下級生が自分の力でどこまでやれるのか判断できるようになる。全てを助けるのではなく、自立させる言葉掛けや、寄り添い自ら行動させることも大切なのではないかと。それが主体性を育むことにつながると思う。上級生が下級生の成長を見届け喜びを感じる、下級生が上級生の姿を見て経験し学ぶ、そのような取組が大切なのではないか。（田村委員）

- ・ 異学年の取組はもちろん大切であるが、上級生が下級生の面倒をみることは成長と共に自然と育まれていくものである。個々に対する取組（自分で考えて表現する）をすることが主体性を育む上で、まず必要ではないか。（桐村副会長）

● 主体性について

- ・ 子供たちに浸透しているように思う。ただ主体性を持たせて終わりではなく、方向性を最後まで見守る・見届けることが大切ではないか。（西原コーディネーター）
- ・ 『宿題を自分で考え行う』という課題があった。我が子は『やらない』という選択をした。（伊藤委員）
 - メリハリという意味ではよいと思う。この日は塾でたくさん勉強するので、今日は何もしないという日を作ってもよいと思う。（西原コーディネーター）
- ・ 自主学習について、どうしても興味があるものに傾く。親としては苦手な課題にも取り組んでもらいたい。（若松委員）
- ・ 小学生に主体性を唱えても、自由に行動することと紙一重になる可能性もある。大人がしっかりとフォローをすることが必要である。主体性といっても様々。そこを精査していくことが大切ではないか。（小栗会長）
- ・ 急にポンと手放されても子供たちは困ってしまう。段階を踏むことが必要である。また、言葉だけではなく体験することで、子供たちの学びの熱意が上がる。どのように見守り、声掛けをしていけば主体性を育むことができるのか、親の立場から、教員の立場から、考える必要がある。（佐藤教頭）

(2) 支援策の具体化について

議長の指示により、教頭から支援策の具体化について説明があり、そのあと教務主任より別紙資料に基づき、学校評価項目について説明があった。

- ・ 生活についての項目だが、【居心地のよい学級や学校をつくろうと工夫している】ではなく、【より良い学級や学校】が適切ではないか。（田村委員）
 - 確かに【居心地の良い】という言葉が気になる。居心地だけを求めているわけではない。【より良い学級や学校をつくろうと努力している】に変更してもよいのでは。上手いかわなくても良い。クラスのために行動を起こすことができたのが大切である。（島田校長）
 - 評価項目によっては、先生の口添えが必要になると思う。（見野委員）
- ・ 健康・体力の項目について、【けがや病気に気をつけて生活している】は学校評価に値する内容なのか。（見野委員）
 - 令和5年度は【健康的な生活ができるように気をつけている】であった。今年度は自分自身のコントロールができることを意識した言い回しに変更した。【安全に気をつけている】に変更するべきか。（芹澤先生）
 - まずは1年生でも理解できるように言葉を変えて作成することが大切である。（田村委員）

- ・ 中学校区で目指す子供の姿についての項目の【地域のためになること】とはどんなことが当てはまるか。(佐藤教頭)
 - ゴミ拾いなど、普段当たり前にしている行動も当てはまる。(見野委員)
 - まつりへの参加も地域のためになる。無意識にしている行動が、実は地域のためになっていることも多々あると思う。それを先生が生徒に説明してあげることが大切である。(田村委員)
 - 挨拶をすることも当てはまる。(伊藤委員)
 - 実施する教師側がどのように捉えているのかが重要になってくる。項目によっては教師の言葉添えが必要である。(佐藤教頭)
 - 地域の行事に参加することも当てはまる。今年度の夏祭りは、子供たちに何をやりたいか考えさせ実施する予定である。(小栗会長)

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

◇ その他報告事項等

- ・ 学校支援コーディネーターから、研修会と1学期の活動報告があった。

◇ その他連絡事項等

- ・ 司会から、次回会議は令和6年11月21日(木)15時から多目的教室で開催する旨の報告があった。